

を行なった。その結果は処理時期ならびに濃度による影響については一定の傾向はみとめられなかったが、桑に対して阻害的に作用することはなかった。

蚕に対する影響は、5 齢期のみの給与試験であるが、飼育成績では毒性はみとめられなかった。

以上の結果からみて、防霜効果ならびに蚕におよぼす影響を検討する要がある。

3. ユニフェロン水溶剤

農林省蚕糸試験場において、桑のさし木活着率向上、桑の鮮度保持および発芽・発育におよぼす効果を試験した。供試薬剤の種類は A 071 および A 138 でそれぞれ 100cc および 100cc を 10ℓ の水でうすめて使用した。

さし木の活着におよぼす効果は、古桑さし木の前処理においては A 071 は 4～8 時間、A 138 は 40 時間浸漬がよかった。新梢さし木については、照度不足で全般に活着率が低く、一定の傾向はなかったが、A 138 の 42 時間前処理の発根および残葉率の高いことが注目された。

水ざしにより桑葉の鮮度保持効果をみたが、いずれも萎凋速度がおそく効果的であった。

また、鉢植の桑について発芽・発育におよぼす影響をみたが、はっきりした傾向はなかった。

以上の結果からみると、ユニフェロンは桑に対し鮮度保持効果はあきらかであるが、さし木の活着および発芽・発育については試験例数も少なく、本年の試験結果から結論を導き出すことはできなかった。

昭和47年度林地関係除草剤・ 生育調節剤試験成績概要

農林省林業試験場除草剤研究室長 真部辰夫

検討会は昭和48年1月9日、日本植物調節剤研究協会会議室で行なわれた。供試除草剤お

よび検討結果は下表のとおりである。

昭和47年度林業関係除草剤・生育調節剤試験成績審査判定表

1 除 草 剤

薬 剤 名	成分名および含有率	試 験 目 的	判 定	試 験 場 所	委 託 者
H W - 2 4	ジフェニルエーテル系化合物 25%	苗畑除草	実	林 試 赤 沼	保 土 谷 化 学
H W - 2 1 3	N-[1-or 2-(3a, 4,5,6,7,7a-ヘキサヒドロ)4,7メタノインザニル]-N'-ジメチルウレア 50.0%	"	継	"	

II 生育調節剤

薬 剤 名	成分名および含有率	試 験 目 的	判 定	試 験 場 所	委 託 者
N-2000 N-3500 N-4500	核酸関連物質 10.0%	さし木発根促進	継	林 試 赤 沼 徳 島 林 試	日 研 化 学
ホーゲン NN	α ナフタリン酢酸カリウム 0.6% 塩酸チアミン 1.0% 硫酸カリウム 20.0% 第一リン酸カリウム 78.4%	移植時の活着促進	継	茨 城 林 試 三重林業センター 埼 玉 林 試	日 本 薬 品
N C - U	新規化合物 90.0%	混用による除草効果の促進	継	林 試 赤 沼	日本カーバイド

について試験されたが、僅かに効果がみられたものの、さらに継続試験が必要で継続となった。

I 除 草 剤

1. HW-24

スギ、ヒノキ、アカマツのまきつけ床、床がえ床とも良好な除草効果を示した。とくにメヒシバの優占する苗畑では効果的なものと考えられ、実用化が認められた。基準散布量はまきつけ床 30 cc/a、床がえ床 40 cc/a（いずれも製品）で上記 3 樹種に適用される。

2. HW-213

除草効果は良好であるが（タデには劣る）、まきつけ床では 20 cc/a（製品）の散布量で 3 樹種とも薬害が生じ、床がえ床ではアカマツに薬害が生じたため継続になった。

2. ホーゲン NN

植付前に根を浸漬処理する場合、植付後土壌処理する場合が試験されたが、埼玉林試（スギ・ヒノキ）では結果がばらつき、薬剤効果を確認することができなかった。茨城林試（スギ）では浸漬処理は 1500 倍液が、土壌処理では 2000 倍液が良好な結果をえているが、実用化にはさらに試験の積重ねが必要ということで継続となった。

NC-U

除草剤に混用し除草効果を促進する目的のものであるが、非農耕地のススキ植生対象では、DPA、DCMU に混合した場合、指定された基準量では期待された効果はえられなかった。

以上が 47 年度の試験概要であるが、次のようなことを今後改善してゆく必要があるものと思われる。

除草剤の試験については、除草効果と薬害の有無が調査の主目的であるため、比較的試験計画がたてやすく、調査は労力がいるが効果は適確にはあくしやすいいといえる。したがって、試

II 生育調節剤

1. N-2000, N-3500, N-4500

スギの発根促進試験が行なわれたが、林試赤沼では 10 ppm の濃度をさし穂に浸漬させたが、対照区に比べ良好な成績はえられなかった。徳島林試ではポット試験（鹿沼土使用）、苗畑試験、さしつけ後水管理をミスト散布するものに

新除草・調節剤

セレクト水和剤

CMP T 除草剤

(取扱メーカー) 三井東圧化学株式会社
三 共 株 式 会 社
北 興 化 学 株 式 会 社

対象作物：タマネギ（本畑・移植）

性状・作用特性：本剤の有効成分は5-クロル-4-メチル-2-プロピオンアミドチアゾール（CMP T）50%の水和剤である。CMP Tは現在小麦及びビール麦に使用されていて麦類の生育期に処理しても、麦類には薬害がなく、雑草を選別的に枯らすことのできる除草剤である。本剤のタマネギに対する試験は昭和43年、46年に実施され実継実：寒地で生育期に製品600～800g/10a全面雑草処理（2～3葉期）の判定を受けた。本剤は非ホルモン系の接触型除草剤で1年生のイネ科雑草及び広葉雑草に作用力の大きい選択性を示す。

茎葉処理効果は極めて大きいが土壌処理効果は期待できない。効果の発現は比較的遅く、完全枯殺には2週間前後の日数を要する。

毒性：本剤の人間に対する毒性はほとんど問題なく急性経口毒性は $LD_{50} = 2080 \text{ mg/kg}$ （マウス）で魚毒性も48時間TLM（コイ稚魚） $= 31.33 \text{ ppm}$ で漁貝類に対する毒性も極めて少ない。

使用方法：雑草発芽後2～3葉期に10アールあたり製品600～800gを70～100ℓの水にうすめ雑草の茎葉に充分かかるように全面散布する。

使用上の注意：①本剤は接触型選択性除草剤なので、使用にあたっては雑草の茎葉全体に均一に散布する。②土壌処理効果がないので雑草発生前に処理しないでください。③本剤には展着剤が入っていますので展着剤の使用はさけて下さい。

験そのものの実行には問題は少ないが、試験の性格上広い苗畑が必要なことと、林業苗畑では、3月（暖地で2月）に作業が始まることを考慮して、少なくとも1月中には試験の打ち合わせを完了するようにお願いしたい。

生育調節剤については、試験設計、試験材料の均一性が試験結果に大きく影響するため、事前に委託者側と受託者側で、充分試験の細部にわたって打ち合わせを行なうよう希望したい。

も第7巻第1号発刊でスタートを切ったが、今後とも相変らぬ愛読者各位のご支援を仰ぐ。

財団法人 日本植物調節剤研究協会
東京都港区芝西久保桜川町26番地
電話 東京(03)502-4188(代)

昭和48年4月発行

第7巻第1号

¥90（送料50）

編集人 日本植物調節剤研究協会常務理事 吉沢長人
発行人 植調編集印刷事務所 広田伸七

東京都港区芝愛宕町1-3 全国農村教育協会内
発行所 植調編集印刷事務所
電話 東京(03)436-3388番

編 集 後 記

新緑の香りのただよう中で、新装なった当誌